マザー・テレサの言葉
パンの形の中に
キリストを見るように
努めながら、
私たちは一日を始めます。
日中は、貧しい人々
の疲れた体の中におら
れるキリストに出会う
ために出かけます

カトリック高松教区報

２０１３年５月５日（第１５４号）
発行所　カトリック高松司教区　広報委員会
〒760-0074　高松市桜町1-8-9
TEL 087-831-6659　FAX 087-833-1484
Email
教区：catholic-takamatsu@takamatsu.catholic.ne.jp
広報：tk-koho@mxi.netwave.or.jp
生涯養成：　yousei@takamatsu.catholic.ne.jp
WEB://www.takamatsu.catholic.ne.jp/

祝 新教皇 フランシスコ誕生

立ちのぼる歓びの白い煙
第266代教皇選出

新教皇が選出された。3月13日、コンクラーベ（教皇選挙）の5回目の投票だった。アルゼンチンのブエノスアイレス教区大司教・ホルヘ・マリオ・ベルゴリオ枢機卿（76歳）。中南米出身では初めて。イエズス会員。新教皇名は「フランシスコ」を名のった。

サン・ピエトロ広場に集まった群衆からは喜びの大歓声と拍手がわきあがった。高松教区の信徒からも歓迎と期待をもって新教皇の誕生を喜ぶ声が聞かれた。

欧州人以外から選ばれたのは1300年ぶり。イエズス会員では初めて。修道会会員からの選出はほぼ2世紀ぶりのことだった。

聖ペトロ大聖堂の鐘が鳴らされ、群衆の前に姿を現した教皇フランシスコは、最初のお願いとして、「祝福する前に、主が私を祝福してくださるように、あなた方が祈ってください」と、祈りを求めた。また、「私の兄弟である枢機卿たちは世界の果てまで（新教皇を）探しに行ったようだ」と、選任されたことをジョークを交え語った。

3月19日には荘厳な就任ミサの前にサン・ピエトロ広場をジープでめぐり、数万人の群衆を祝福。笑顔で手を振り、親指を上げて親しみを表した。

「愛が勝利しました。慈しみが打ち勝ちました。」教皇フランシスコは復活の主日のミサで「私たちはこのいつくしみを実践していきましょう。神が地をうるおされるように水路となり、正義と平和を反映させましょう」と、全世界の人々に呼びかけた。特にシリアでの平和実現、アジアでは朝鮮半島の平和のために祈った。そして、「私たちはしばしば疲れ果て、くじけてしまい、悲しくなってしまいますね。私たちの心を閉ざさないようにしましょう。決してあきらめないようにしましょう」と人々を優しく励ました。

障害のある子をハグする教皇

新教皇の姿からは謙虚で親しみやすさが伝わってくる。又教皇職の盛装をやめ、大司教時代の十字架やミトラ（司教冠）をつけ、質素な靴を履き街角で人々に気楽に挨拶をするなど、これまでの教皇とは違う独特のスタイルで好印象を与えているという

日本の司教協議会会長の池長潤大司教は「新教皇はこれまでの牧者としての豊かな経験に基づき、福音宣教への強い熱意を以てこれからの教会を指導してくださるだろうと私たちは期待しております」と、メッセージを発表した。バチカンから遠い高松教区だが、喜びを以て新教皇のために祈りましょう。

信仰年に寄せて⑤

宇和島教会担当司祭　田中正史

「神を信じる」とは どのようなことなのか

信仰という内的行為を日本語では「神を信じる」という一つの言い方によって表明しますが、ラテン語では「神を信じる」という場合に次の三つの表現を区別して「信じる」ことの意味の奥深さを表しています。

① credere Deo（神へと信じる）、
② credere Deum（神を信じる）、
③ credere in Deum（神において信じる）。

このような区別を最終的に確立するのは中世のトマス・アクィナスですが、それ以前にアウグスティヌスは②と③の区別を強調していました。このような区別がなされるようになった背景には、悪霊もある意味、神の存在とその権能を信じることが可能であることから、悪霊の信仰と真のキリスト教信仰を区別する必要があったからだと思われます。

ルカ福音書4章41節にはイエスのメシア性と権威を認める悪霊のエピソードについて語られています。「悪霊もわめき立て、『お前は神の子だ』と言いながら、多くの人々から出て行った。イエスは悪霊を戒めて、ものを言うことをお許しにならなかった。悪霊は、イエスをメシアだと知っていたからである」。

聖アウグスティヌスと聖トマス・アクイナスに学ぶ

アウグスティヌスはこの聖書の箇所を注解して、彼の著作『説教144』において「キリストを信じる」ことと「キリストにおいて信じる」ことの違いの重要性について、こう語っています。「『キリストを信じる』とは『イエスがキリスト（神の子メシア）であることを信じる』ことである。しかし、悪霊も彼がキリストであることを知っており、それを信じることは可能である。それに対して、『キリストにおいて信じる者』は、キリストに希望を置きながら信じ、キリストのところへ来て彼と一つになろうとし、キリストの体（教会）の一員になろうとする。希望と愛が信仰に伴わないかぎり信仰が行われることはありません」と。

また『真の生活の知識について』37章の中では、「神を信じること」と「神において信じること」ことの大きな違いについて次のように述べています。

「この両者の間には大きな違いがある。なぜなら、悪魔も異教徒も『神を信じる』が、『神において信じる』ことはないからである。確かに彼らはすべてのものを創造した神が存在し、神がすべてのものを超えた権能を持っていることを信じている。しかし、神を愛しながら彼に達しようとする者だけが、神において信じているのである」。

このようなアウグスティヌスの区別を引き継ぎながらトマス・アクィナスは別の切り口から信仰について掘り下げて考えていきます。アウグスティヌスにとって信仰はただ信じるだけではなく、それに希望と愛が伴っていることが大切でした。

それに対してトマスは信仰がそもそも可能となる根源を見据えています。

トマスは信仰を、信仰者が自分の努力や意志の力によって行うことではなく、信仰の究極の担い手である神の働きへと参与することと捉えています。光そのものがなければ何も見ることができないように、また母親が自らを与えるという愛情を子どもに注がないかぎり子どもがそれに応えることができないように、神がご自身をお与えになるという恵みに与らないかぎり私たちは信仰をもつことができません。そこから「神への参与」を表す「神へと信じる」という①の信仰行為が成立していくのです。

金 ドミニコ会 岡本哲男師　祝司祭叙階記念　高松教区 岩永千一師 ダイアモンド

1953/12/22 叙階

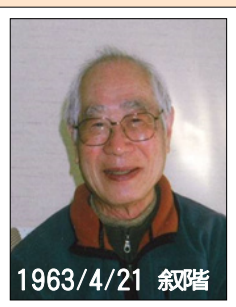
小豆島教会に40余年

岩永神父様の司祭叙階60周年をお祝いいたします。聖香油のミサ、そして祝賀会でのお話では神様のはからいの不思議さを想わされました。

神学生時代の兵役免除と長崎での被爆体験という2度の死の回避。それらを経て、司祭に叙階されてからはローマで学び、その後、四国では香川県東讃地区で宣教と司牧に携わり、長尾聖母幼稚園の初代園長となり、小豆島の内海に「マリア園」が設立されると園の側に移り住み、シスター方と在園者、園で働く方々の霊的世話をされると共に、小豆島教会の主任司祭としての役務を長年にわたり果たされました。

在島40余年、これからもこの地にあって、これまで築いてきた関わりを大切に生きたいとのこと。これまでの師のご苦労を神様が嘉せられ、豊かな祝福を賜られますようお祈りいたします。そして、これからも心身共に健やかであらせられるよう重ねてお祈りいたします。

松永　洋司


1963/4/21 叙階

キリシタン史を研究

岡本神父様、金祝おめでとうございます。司祭として歩まれたこの50年、ご苦労の多いこともたくさんあったと思います。神父様がドミニコ会士として松山の教会で司牧をスタートされた時を思い出します。当時は数少ない日本人司祭として信徒たちに大きな希望を与え、歓迎されました。

松山教会主任司祭の時代は活発に聖書や教理を学ぶグループを指導され、多くの人々を受洗に導かれました。またキリシタン史の研究にも専念され、説教では殉教者の思いを熱く語られました。これまでのご苦労に心から感謝申し上げます。神様の慈しみがいつも神父様の上に注がれますようにお祈り申し上げます。

丸尾　修

金 祝誓願宣立記念 銀 聖ドミニコ宣教修道女会

金祝Sr. セリナ前田

金祝Sr. 杉山明美

友情、励まし、誠実さ、そして「愛」は神からもの。「あの人・この人」たちへの私の感謝は、神への感謝、祈りです。

充実した生活の明け暮れも、何かよりすがりたい人の心、不変の愛、祈りで心が安らぐ日々でした。私たちの日々の瞬間をお捧げできる召命の恵みの中、多くの人々の支え、祈りによって今、祈りの日々を過ごさせていただいております。神の愛といつくしみのうちに恵まれて。

銀祝Sr. 合田慶子

銀祝Sr. 梅木信子

神様と多くの人々の助けによって現在の私たちがあります。感謝と喜びの内に主を賛美しています。

はばたき

今年の復活祭は桜の満開の中で迎えた。教会隣の幼稚園庭の、見事な花々の雲のような重なりの美しさにかたずをのんだ。こんなに満開の時期と重なることは珍しく、今年は特別な意味を持つ復活祭なのではないか、とふと思った。

カトリック教会は新しい教皇を迎えた。中南米からは初の選出であり、欧州以外出身の教皇が様々な教会の難しい課題にどう対処するのか、と各新聞は書きたてた。

写真で拝見するお姿は柔和な表情の笑顔が印象的だ。喜びの歓声を上げる群衆に「こんにちは」と親しみやすいふつうのあいさつをし、最後には『良い日曜日を！おいしい昼食を！』と素朴に呼びかけた。気さくなパパさまという感じだ。

司教協議会々長の池長大司教も「新しい教皇とともに教会の刷新のために努力しよう」と祝いの言葉を述べた。

バチカンというと〝遠い存在〟という感じがするがそうでもない。前教区長の溝部司教は高松教区の神学院の問題で前教皇と直接話し合い善処された。教皇は遠くて近い神様の国を実現する、ペトロの後継者だ。

教皇名は『フランシスコ』。さわやかな響きがする。移民の家庭の出身、貧困者の代弁者、バスで通勤、自炊をするなど、新教皇の素顔は庶民的で穏やかで質素だ。新しい教皇に従い、共に祈り、この困難な世を生きていこう。

第2バチカン公会議って何ですか（下）

大きく変わった教会観

カトリック教会にとって大きな転換点となった第二バチカン公会議。その開催五〇周年を記念する「信仰年」にちなんで公会議を振り返るこの連載、前回までに、公会議の第一会期で、二つの勢力の対立が明らかになり、教皇の介入もあって、主導権が教皇庁の保守派から、世界中から集まった司教たちに移ったこと、典礼が自国語に刷新されたことなどを見ました。今回は、その対立のひとつの軸となった、教会についての教えを、後に公会議で採択された文書『世の光』（教会憲章）に基づいて、見てみましょう。

教会は組織？

公会議以前の時代、神学は教会をいわば「組織」のイメージで語るのが主流でした。この「組織」がどのように始まって、誰が指導していて、どういう役職があって、また誰がどういう権利と義務を持っていて、どういう決まりがあって…という具合です。神が作った組織なので絶対であり、その指導者の権威も絶対的である、というニュアンスも伴いがちでした。神から力と権威を授かった、さまざまな位の聖職者と、それに導かれる一般信徒との身分の違いも強調され、その関係は上下的なものとして規定されました。

法的な教会理解

その背景には一六世紀以来のプロテスタントとの対立もあり、どちらが本物の教会なのか、といった時に、我々カトリックの聖職者は、秘跡を執り行う権利と権威をキリストから授かった、それは「按手」（頭に手を置く儀式）の継承によってキリストの弟子たちから途切れることなく今の世代まで伝えられてきている、継承の途切れているプロテスタントの聖職は無効だ、といった議論がなされました。つまり、教会のアイデンティティを聖職の有効・無効から考え、また聖職を権利・権威の継承という視点から見る、極めて法的な教会理解です。

このような貧しい教会理解に不満を持ち、もっと聖書や伝統から、深く豊かな理解を導こうとする努力は、公会議よりも何十年も前から、さまざまな神学や運動の中に現れ始めていました。したがって、公会議で、従来の教会理解に基づいた文書『教会について』が提出された時、これを支持する保守派と、その教会理解に違和感を抱く多くの司教たちとが衝突したのは、無理からぬことだったのです。

回復された伝統

権利、義務、権威、服従といった法律的・機械的・職務的な観点から教会を捕ら『教会について』に対し、『世の光』が示す教会は、私たち一人ひとりが集まって、ひとつの神秘的な「からだ」をなしているとか、神によって集められた、ひとつの「民」であるというような、聖書的・有機的・神秘的なものでした。

それは神から与えられた「権力」や「役職」を通して、教会を階級社会的に理解するのではなく、聖霊によってすべてのものが聖なるものへと変えられていくという遠大な視野のうちに、教会を救いの恵みがあふれ出る泉（その源泉はキリストです）、しるしとしてとらえる理解であり、そしてお互いを、洗礼によって同じ使命と尊厳を与えられ、それぞれに違った賜物をいただきながらも、ともに支え合い、困難な現実に満ちたこの世を旅していく同胞として、水平的な関係でとらえる教会理解なのです。

つまり一般信徒は「組織」の下部構成員ではなく、「からだ」の有機的な一部であり、旅する仲間であり、教会そのものである、という洞察です。『世の光』が「聖性への普遍的召命」という言葉で、聖職者や修道者だけでなく、すべての信者がキリストのように聖なる者になるように招かれている、と教えているところにも、その教会観が表れています。

また「キリストの教会＝カトリック教会」ではない、として、他のキリスト教会も救いの計画の一部にあることも述べています。

ここで触れたのは、『世の光』の教えのほんの一部ですが、ともすると、教会を身分社会的に考えがちな私たちはこうした、深い伝統から回復された洞察を大切にしていければと思います。

真生会館機関誌「Vait al」編集長　世古　淳

ご復活と共に別れと出会い

75周年祝えました ありがとう神父様

昨年4月にパウロ神父さんの歓迎会でスタートした新居浜教会は創立75周年行事をパウロ神父様による記念誌のDVDや、記念ミサ、祝賀会などで盛会裡に挙行することが出来ました。この大きなイベントと並行して、パウロ神父さんは教会に堆積していたガラクタ整頓の先頭に立たれ、見違えるように整理整頓も成りました。行動的でその健康を案ずるほどの働きぶりでした。

今年は役員改選期に当たり、神父さんの尽力もあり難航するもクリアし、当教会創設以来の画期的出来事である初の女性議長、副議長が誕生することとなりました。

大阪教区へ赴く パウロ神父

特に青少年宣教司牧には熱心に当られ、子どもと共に捧げるミサの準備には自らギター駆使してくださったり、夏季キャンプの再開や聖堂清掃活動資金に資する「ユースカフェ」等、活気を呈し始めています。加えて作業やちょっとした催しの後、気軽にフライパンを振るって信徒との交流を図られたことなど、パウロ神父様が新居浜に残された1年の司牧の成果は4～5年の成果に匹敵するものと感じています。

『疾風の如く大きなフライパンを持って着任し、フライパンと共に疾風の如く去って行った』愛の宣教者パウロ神父さんのこれからの大阪教区での働きににエールを送ります。『アリガトウゴザイマシタ』

新居浜教会　信徒一同

若者や母親たちに やさしく福音語る

早や3年も経ってしまったのですね。いつも落ち着いて、静かにお話しくださっていたシスター。「若者と聖書」に参加した幼稚園の先生も、シスターが穏やかに語しかけてくださり、みことばを深く浸み味わったそうです。また「子育てと聖書」のお母さんたちもとても感謝しておられました。黙々と司教館の3階でお仕事をなさっていたシスター中島、パソコンがお得意だったので、いつも助けていただきました。ありがとうございました。英語やスペイン語も話されるシスターは修道会では会議の通訳をされたり、若い方の霊的同伴など大切なお仕事をなさっておられるとのこと。

自修道会へ復帰 Sr. 中島としえ

また、これからは教育の現場で、生徒の皆さんにキリストの福音を述べ伝えられることでしょう。どうぞ、お身体を御大切になさってくださいね。神様の豊かな祝福とお恵みをお祈りいたしております。

聖母被昇天修道院 Sr・高松常子

信仰によって 共に歩みましょう

この度、江ノ口教と赤岡教会の担当司祭として赴任しました「ヒランジャヤワルデナ神父」です。出身はスリランカのコロンボです。１９７９年生まれ、１９９４年に神学校に入りました。初誓願は２０００年、２００８年９月15日に叙階を受けました。

ヒラン神父 オブレート会士

母国で縁あって仏教徒との共同生活を体験し、司祭としての活動の中、共に暮らす他の司祭と一層信仰を確信致しました。

２年間、司祭として母国で活動した頃、日本への福音宣教の辞令が下りました。周囲の人々は「今なぜ日本なのか？」と豊かな国への赴任をいぶかしがり、もっと必要としている国があるのではと、疑問にも思ったようでした。私自身も、果たして日本が自分を必要としているだろうかと感じていましたが、「ＹＥＳ」と従順の心で日本に来ました。

目に見えるものによらず、信仰によって歩み（Ⅱコリント５・７）ながら神さまのご意思にゆだね、つとめてゆきたいと思っています。よろしくお願いします。

神学生便り 認定式＆選任式

認定式

3月10日、ヨセフ呉文成神学生の認定式が行われました。

神学生としての第一段階の式で、正式には「司祭・助祭候補者認定式」と呼ばれます。式中において、司教様によるお祈りと勧めの言葉の後、ヨセフ神学生からは決意表明の言葉が読まれました。

着衣し祝福を受けるヨセフ神学生

「司祭になりたい」というヨセフ神学生の決意の言葉、司教様の祝福、また会衆席の皆さんの祈り、それら全てが聖堂を包んでいたと思います。また、式中でスータンが授与され、所謂目に見える形での“着衣の儀”も行われました。教区神学生としてのこの大切な一歩を、ヨセフ神学生は勿論のこと、その場に会した全ての方々が喜び祝う式となりました。

選任式

3月20日、ヤコブ宋亨根神学生の最終段階の式です。助祭叙階前の臨時の聖体奉仕者としても務められるようになります。尚、今回の司式は、諏訪

カリスを授与される宋神学生

ひと　教会を支える“何でも屋さん”

松山教会　三好洋二さん（73歳）

きょうもトイレ修繕の業者が教会に来とるけんみに来たんよ」と松山教会の三好洋二さんは温顔をほころばせる。

週日でも教会へ来ることは多い。三好さんは若い頃からずっと教会の様々なお世話をしてきた。職を退いた73歳の今でも教会事務局の『営繕係』として働いている。

建物の電気系統の故障点検、掃除機など電気器具の修理、エアコンのフィルター掃除やイベント時のマイクの調節など何でもやる。何か具合が悪くなると『三好さん』と声がかかる。植木の世話、花壇の手入れ、水遣りなどやることは多い。

「自分のやれることをやってきただけ」と三好さんは謙虚だ。これまで信徒会の役員を勤めたり、妻の幸子さんと一緒に日曜日の早朝ミサの準備も続けてきた。器用で何にでも対応できる教会の“何でも屋さん”とみんなに喜ばれている。

信徒の高齢化で、働く人が少なくなった中で、”仕える者”として教会を支え、神様に奉仕しながらコツコツと続けてきた。でも最近は年齢を感じるようになった。若い人が早く後を継いでほしいと願っている。

道後教会　丸尾　修

信仰年によせて　幾山河越え今日も旅ゆく

受洗のきっかけは多感な20才過ぎ、或る洋画をみた時でした。牧師さんが“戦争を終結して下さった神に感謝の祈りをしましょう”と、皆が祈りました。私も祈っておりました。心は平和でした。同じ自分なのにその変化にビックリ、教会に行くようになりました。

丁度その折り、新聞に徳島本町の焼跡に司祭館が建ったニュースが載りました。当時、田中英吉神父様（後の司教）が高知から通っておいでした。留守番の金山（故人）さんから差し出されたノートに“幾山河越え去りゆかば淋しさのはてなん国ぞ今日も旅行く”と、かの有名なうたを書きました。当時の心境そのものでした。

伝導士、介護の仕事、幼稚園の事務等々を経て、現在はケアーハウスに居住し“はかり綱はわたしのためによいところに落された　わたしのうけたものはすばらしい”（詩編16）とのみ言葉が心にしみとおる毎日です。

81才から聖書百週間を始め、計り知れない神のご計画、お導き、愛の深さを悟る事が出来ました。

それまでの私は唯、神の恵みによって導かれ、苦しみを乗り越え、精一杯、人生を歩んで来ましたが、神の愛を深くかみしめていませんでした。

今は生かされている事への感謝で一杯です。生かされていると言う事は、まだまだ未熟な私のため生きて悟らなければならないのだと思います。

この喜びを一人でも多くの方に味わっていただきたいと思いますが高齢者への布教は難しく、毎日の生活の中で、相手の気持ちを汲みとり、不自由な方にどこまで手助けしてよいか、１００才に近い方にでも相手のプライドを考え、助けと喜び、信頼を伝えるための努力をしています。

神の恵みはすべての人に注がれています。ですから今は神の恵みに心が開きますように、と祈っております。

私の一番の喜びは、バスを乗り継ぎ一時間かけて教会に行き、ごミサに与り、共同体の皆さんに会えることです。腰の悪い私が、何時迄行けるかと思うと心細いですが、明日を神に委ね生きていきます。

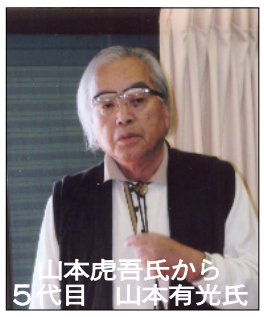
神のお計らいに感謝。

徳島教会　水野幸子

高知県高岡郡越知町薬師堂の地に

横畠聖堂跡記念碑建つ

2013年1月15日


山本虎吾氏から
５代目　山本有光氏

このたび、山本有光氏が、横畠聖堂跡に立派な記念碑を建てられた。有光氏は、聖堂建設にかかわった「山本虎吾」の子孫の5代目です。高祖父（山本虎吾）が、キリシタン流人と出会ったときに、心の目にはキリストの姿が映っていたはずです。そして、僻地の横畠に県下で最初の聖堂建設（教会では二番目）にかかわった高祖父の遺徳を敬われて、記念碑をたてられました。

明治期　高知の福音宣教の跡

1月15日、中島町教会を11時過ぎの出発であった。高岡郡越知町の黒森山（1，017㍍）の中腹に開けた「虹色の里・横畠」（通称・薬師堂）に向った。前々日に降った雨の凍結を心配したが、山道の凍結もなく小休止を入れて2時間足らずで到着した。参加司祭は、硫黄神父・ヒラン神父。信徒は、中島町教会7名、江ノ口教会3名と少人数であったが、地元からは記念碑を建てられた山本有光さん他、6名の方々が参加してくださった。

横畠中（薬師堂）は、案じた風もなく穏やかな晴天にめぐまれた。はるか西方を仰ぐと、明神山（1，540㍍）の雪嶺が美しく陽光に輝き、最高の姿で迎えてくれた。

午後1時半の除幕式では、聖堂閉鎖（昭和11年）から実に、77年目の聖歌「あめのささき」を歌った。のどかな山里と流人の出会いに始まる奇跡の聖堂」と述べられている。

かつて横畠（薬師堂）

献堂　1906（明治39）年9月26日
閉鎖　1936（昭和11）　月日不詳

―聖ヨゼフに捧げる―
往時のカトリック横畠聖堂

り」を成し遂げた気骨者であった。そればかりか、キリシタン弾圧の不当を見抜く見識と慧眼の持ち主でもあった。

明治19年、高知第一中学に遊学した孫の純志は、在学中にカトリック教会（現・中島町教会）で洗礼を受けた。信徒数もまだ数十名に過ぎない黎明期だった。

純志少年は、高知市から遠路はるばる馬車と徒歩で、横畠に通うドミニコ会のアダネス神父と青木伝道師を先導された。

横畠において、最初の改宗者となった祖父虎吾の洗礼は言うまでもない。純志は洗礼からわずか3年後（18歳）にカリエスで倒れた。

それから20年後、明治39年9月26日山本虎吾、村長の左京武耀、山崎正汎、坂本久寿男（マリア小須磨の弟）他横畠の信者によって、県下で最初のカトリック横畠聖堂が建てられた。

さて、記念ミサの後、聖堂を建てられた方々の子孫、山本有光さんから記念碑建設にいたるご挨拶を頂いた。同子孫の山崎史朗さん、正宏さん、左京武宣さんが紹介され和やかなひと時となった。

私達は、ともすれば行く方に目を向けがちです。このたび、来し方に触れる機会を与えてくださった山本有光さんに、深甚の感謝とお礼を申し上げずにはいられない。

江ノ口教会　山下精三

＊写真提供　城戸昭彦氏

《短歌でたどる歴史》一粒の種

山下　精三

山里に七十七年忘らるる　聖堂跡に記念碑建ちたり
浦上の四番崩れ厳冬の山路はろばろ流されて来し
囚はれて死をも怖れぬキリシタン遠流の果ての土佐に入り来ぬ
繋がれしままの流人に飯与ふ山の旅籠の主人なりけれ
あはれなる流人なれどもみなあやに美しくみゆ虎吾の目には
弾圧の不当を思ふ益荒男の心の襞にひそむキリスト
遊学の純志少年自づから霊名受けてセバスチャンとふ
遊学のさらなる夢の叶はざれど里に導くキリストの教へ
気骨者の祖父虎吾より受洗なせば遠路いとはず神父通ひ来
黒森の山の中なる横畠流人の蒔きし種は芽生ゆか
カリエスに純志は倒れ十八歳兵児帯姿すずやかにして
虎吾また主立つ者に村長もありて村あげ聖堂は建つ
修道女この地に生れて身を捧ぐ明治・大正・昭和にわたり
戦前マニラ・台北・孤児院は高尾につくすマリア小須磨は
街道の廃るるままにキリシタン聖堂は閉づ昭和のはじめ
高祖父と流人の縁とはに記し山本有光建つる報徳碑
ありありと雪嶺見ゆる日なりけりみ空に祝別式の歌声

の空へ歌声が広がり、山本有光さんと山崎史朗さんによって、記念碑の除幕が行なわれた。

祝別式のあとは、山本有光さんのご厚意によって、近くの集会所に場所を移動し、記念ミサを行った。地元から越知町議会議長・産業建設常任委員長他、横畠の方々もご一緒に感謝の祭儀となった。

本日の式次第に、山本有光さんは「土佐の山間とキリシタンによせて」のなかで、「高祖父（山本虎吾）は、松山街道の要所として栄え、旅籠が七軒もあった。そのころの明治2年12月に、長崎の「浦上四番崩れ」で、土佐藩へのキリシタン流人（116名）の内、先発の戸主25名が雪の松山街道を護送されてきた。旅籠の主人山本虎吾は、その流人達に食事を与え、キリシタン信徒の死をも怖れない信仰の深さと、その美しさに心を打たれた。

虎吾という人物は、一反半の畑を一人で掘り、今も残る用水池「虎吾掘

碑を祝福する硫黄師とヒラン師

私たちは今どこに立っているのかを確認する

「高松教区信仰共同体の養成に取り組む」に際し、本教区の歩みを振り返る

諏訪榮治郎司教

第二バチカン公会議　（1962～1965）
キリスト中心・神の民・対話の精神・社会との連帯・地方教会
日本の教会の基本方針と優先課題　（1984．6．22）
・基本方針　①宣教共同体・キリストの福音を一人一人にもたらそう。
　②社会の中で弱くされた人々と共に福音の担い手になる。
・優先課題　①宣教共同体に向かう
　②協力体制
　③福音宣教推進全国会議開催（NICE 1）

第一回　福音宣教推進全国会議開催（NICE 1）　（1987．11）京都
テーマ「開かれた教会」
会議からの提案　柱1　日本の現実・社会と共に歩む教会・信仰養成
　柱2　生活を通して育てられる信仰・・・分かち合い
　柱3　福音宣教する教会共同体・・・・・社会に仕える教会
提案を受けて司教団からの答申「ともに喜びをもって生きよう」（1988）
ナイス推進チーム設置　・信仰生涯養成チーム設置　・制度を考えるチーム設置

第二回　福音宣教推進全国会議開催（NICE 2）　（1993）長崎
テーマ「家庭の現実から福音宣教のあり方を探る」
会議からの提案・・①分かち合いの推進
　②共感　共有出来る共同体・・弱くされた人々への・・
　③現実を識別して生きる信仰者の養成・・個人から共同体へ
　④典礼の工夫・・典礼の刷新
　⑤青少年（受け入れるための環境設定）
（司教団から）答申　家庭と宣教・家庭を支え福音を生きる教会共同体をめざして（1994）

高松教区の動き　溝部司教着座　2004年7月
2005年　司教教書・「聖霊による一致」（教区作りを目指して）
2006年　司教教書・「一致のために」（聖体の秘跡に生きる）
　司教教書・聖体の年にちなんで（上）「ともに献げるミサ」
　司教教書・聖体の年にちなんで（下）「主の日の意義について」
2007年　司教教書・「宣教に向けて歩む」（上）
2008年　司教教書・「教区の一致と再生へむけて」
　※司教との一致・協力宣教司牧態勢・RM神学院廃校について。
2010年　司教教書・「高松教区三年後に向けて」
　※第一回　福音宣教推進全国会議（NICE 1）に答える。
2011年　年頭司教教書・新求道共同体「道」に関して。
「高松教区三年後に向けて」（2008年11月）
　高松教区の方向性を確認し、今後の福音宣教について検討する。
Ⅰ高松教区の優先課題・①協力宣教司牧の推進。
　②青少年宣教司牧の活性化、協力態勢の強化
　③召命への積極的な取り組み。教区民全体が物心両面で支援する。
Ⅱ「高松教区　宣教大会（2011年）に向けて3年間の準備に入る」
イ）1年目（2009年）テーマ「教区現状認識の年」
ロ）2年目（2010年）テーマ「養成」・「神の民」とは？→各地区の「教区民の集い」
ハ）3年目（2011年）テーマ「宣教大会（教区シノドス）」開催。
　①2009年1月「小教区代表者会議」
　（問いかけ）「私たちはどんな教区、小教区を目指しているのか？」
　※（NICE 1）の提案に基づき教会の三本柱を生きる教会作りを提起。KJ法を使う。
　②2010年「各地区・教区民の集い」に向け、養成を通して、まず「神の民」とは？今後の目標「私たちはこんな教会を作りたい」への（中間）確認の集い。
　③2011年「教区宣教大会」（於カテドラル）「私たちはこんな教会をめざします。」

諏訪司教着座　2011年6月
目標：「教区の一致と再生へむけて」（どんな教会を目指すのか）「信仰年（2012．10～2013．11）にあたり、NICE 1の教会の三本柱である「信仰」をとりあげる。「神の民」が各自の生活の中に神の導きと恵みを発見する養成コースとして「ダイナミックメモリー」を実施。各自の「信仰の歩み」を振り返る。

徳島地区

愛媛地区

香川地区

高知地区

教区目標に向け教会の三要素を一つずつ取り上げ、年毎の養成のテーマとする。
2012年　司教教書・「高松教区設立50周年にむけて」・信仰の年
　※今後の歩み「意識　養成　組織」がポイント協力宣教司牧・青少年育成

養成コース実行委員会

現在：信仰共同体の養成に取り組む

2013年
司教教書・「高松教区設立50周年にむけて」
※これまでの感謝・信徒とは・信徒の霊性と養成・信仰養成の具体案。各ブロック司祭による「養成コースチーム」をたちあげる。テーマとして「信仰共同体」を取り上げる。復活祭後「みことばの分かち合い」を各地区（ブロック）で展開する。

教区スケジュール

7月
1日（月）福者ペトロ岐部と187福者殉教者（記）
3日（水）聖トマ使徒（祝）
7日（日）年間第14主日　結城了雪祭in阿南
14日（日）年間第15主日　高山右近祭in小豆島
15日（月）聖ボナヴェントゥーラ司教教会博士（記）海の日
20日（土）宣教司牧評議会役員会13:00
21日（日）年間第16主日
25日（木）聖ヤコブ使徒（祝）
26日（金）聖ヨアキムと聖アンナ（記）
28日（日）年間第17主日
29日（月）聖マルタ（記）
31日（水）聖イグナチオ（ロヨラ）司祭（記）
8月
4日（日）年間第18主日
6日（火）主の変容（祝）広島平和記念日
8日（木）聖ドミニコ司祭（記）
11日（日）年間第19主日
14日（水）聖マキシミリアノ・マリア・コルベ司祭殉教者（記）
15日（木）聖母被昇天祭
18日（日）年間第20主日
21日（水）聖ピオ10世教皇（記）
22日（木）天の元后聖マリア（記）
24日（土）聖バルトロマイ使徒（祝）
25日（日）年間第21主日
27日（火）聖モニカ（記）佐々木光雄師命日
28日（水）聖アウグスチヌス司教教会博士（記）
29日（木）洗礼者ヨハネの殉教（記）

典礼の重大さを実感

―教区典礼委講座に参加して―

教区典礼委員会は典礼的な行事のための実行委員会ではありません。典礼に関する養成委員会です。年間、４回開催している委員会ごとに公開講座も行っています。前年度のテーマは「ミサ、その式文」でした。今年度も教会の２千年に亘る伝承に基づいて典礼総則を読みながら、各現場での実践と適応を探っていきます。

現在教区典礼委員を務めている委員さんに、どういう関わりと働きをしているのかについて語っていただきました。

◇◇　◇◇

「聴く」「捧げる」大切さ

四国における教会の組織を知らなかった私が、おこがましくも教区典礼委員会に出席させていただいていることに感謝しています。元担当司祭から「高松で典礼勉強会があるから勉強してきなさい」と言われるままに参加し、回を重ねるごとに教区典礼委員会という大切な場所にいることに気づきました。

出来るかぎり出席していますが、知識を得ると同時に再認識、再確認することがたくさんありました。本来は、自分の教会にもどって、得たものを伝えたいと願っていますが、それも難しい状況で、個人的に連絡をとり改善しています。

聖書朗読では「神のことば」を｛聴く｝ことの重大さを、集会祈願は　その日のテーマを定める役割を持っている事に気づき、次に読まれる聖書朗読に耳を傾ける様に促しています。ミサには単に与るのではなく、積極的に参加することを、ホスチアは単に入れるのではなく、私を捧げるホスチアとして捧げるよう心掛けること等を伝えたいと思っています。

教区典礼委員会
愛媛地区委員　塩入紘子

◇◇　◇◇

ミサは神様との応答

教区典礼委員になって二年経ちますが、今だに知らないことが多いなと、典礼の勉強を通じて感じる今日この頃です。

レナト教区典礼委員長のもとで勉強会を持ち、テキストを読むうちにこれはぜひとも自分の小教区でも読んで意識と知識の統一を図らねばと、自分の教会でも他の典礼委員と勉強会を開きました。

テキストは白浜満（聖スルピス会司祭）「典礼をやさしく学ぼう」（※カトリック新聞連載記事）から『ミサの素晴らしさ』を使いました。これはとても易しい言葉で丁寧に典礼を解説してあり、「ローマミサ典礼書の総則」も用いているため、総則についても理解することが出来るので一般信徒の皆さんにも是非読んでいただきたいものです。

この中で特に注目すべきは、ミサ中の御言葉の祭儀が人間と神との対話によって成り立っているということだと思います。特に答唱詩編では神からの言葉が人間に向けられて語られる詩編と、人間から神に向かって答える答唱とで成り立ち歌われる様は、まさに神との対話であることを如実に表しているます。

私は松山教会の典礼委員会の中では侍者を担当していますが、特に教区典礼委員として気付いた点を意見として出すよう任命時に委託されました。

私たち侍者は司祭の傍から会衆席を見ていますから、気付く点は沢山あります。

その一つひとつを挙げるときりがないので、気になるものをいくつか紹介します。

まずは動作についてです。朗読担当者が毎週変わる教会では、動作の流れが統一されていないようです。また順路とおじぎの位置などについては、これは重要でないように思われがちですが、ミサ中に行われる動作にはそれぞれ意味があるので、司式司祭と打ち合わせしておく必要があります。

これまで典礼の勉強会に参加して一番心に残ったのは、朗読前にする礼は会衆にではなく神の言葉である聖書に向かってするということでした。「これから、み言葉を伝えさせていただきます。」といったところでしょう。

奉仕のうちに
教区典礼委員会
愛媛地区委員　濱田哲夫

桜町聖堂で支援コンサート　3月10日
『東北へ届け！祈りの調べ』

今年も震災日に合わせて、支援コンサートが行われました。第1部、第2部と時間の過ぎるのも忘れ、出演者の方々の演奏は東北の被災者の皆様に対する祈りの心が届きそうな温かい演奏会でした。

私は洗礼は受けていませんが、お誘いを頂き教会のコーラス「賛美の歌」の1員として信徒の皆様と聖歌をはじめ色々な歌を楽しく歌わせていただいています。教会でのコンサートや練習は未洗者のわたしにとりましては特別です。そこではいつも神様のみ前での祈りのひと時であるという思いで、わたし自身も心落ち着くひと時です。

この度のコンサートでは信徒の皆さんと一緒に裏方のお手伝いをいたしました。遠くから来られる出演者の皆様のために信徒の皆さんは何日も前から、そして当日も細かい心遣いをされている姿に接し、教会に於ける信徒さんの信仰の深さを感じた一日でした。

尚、当日の皆様からの義援金は（東北）「高校生対象給付型奨学金『まなべる基金』」へ寄せられました。

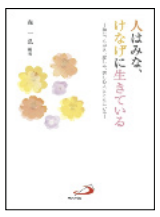
賛美の歌　石丸定子

祈りのキャンドルサービス

マリンバ演奏

新刊書籍紹介

■人はみな、けなげに生きている



―神は、もがき、悲しみ、苦しむ　人とともにいる―

人は弱く、傷つきやすく、人生は複雑で、時として残酷である。

巧みなインタビュアーによって引き出される人生の重荷の数々。それらはすべて実話である。インタビュアーは、ただ静かに語る人の声に耳を傾けるだけであるが、語る人たちは安心して過去の人生の痛みを語る。どうしようもない人生の苦しみを体験した人びとが、生きていくための光と力を、一体、どこから、どのように汲み取ることができたのか。その心の内から語られる言葉は、貴重であり、読む人の心を揺さぶらずにはおかない。本書は、月刊「家庭の友」に連載中の記事を単行本化したものです。

定価：1,260円（税込み）
著者：森　一弘
判型：B6判並製　172ページ
発行：サンパウロ

■根本問題をつかめ！

キリスト教は何を問題にしてきたのか？　どこに根本的な解決を求めようとしてきたのか？　その力動性が、読み終わったあとに何らかの形で胸に残ってほしいと願う著者が気合を込めて書きあげた。「ああ、キリスト教ってそういうものなのか！」とちょっとわかった気がする、今までにない読みごたえのある真面目なキリスト教入門書。仮想読者A君との対話、各頁の脚注や図解などの工夫も満載。

・著者　来住英俊　きし・ひでとし
1951年滋賀県生まれ。大学では法律を学び、一時電機メーカーに勤めるが、79年パック旅行で訪れたイタリアの教会に魅せられ、81年受洗、同年御受難会に入会。89年司祭叙階。現在まで主に養成、黙想指導に携わってきた。「祈りの学校」校長。

定価735円（本体700円＋税）
213頁　発行：ドン・ボスコ社

カトリック通信講座

どなたでも、いつからでも、どの講座でも、ご自分のペースでご受講いただけます。

神・発見の手引
私たちに常に呼びかけている神について、人生、自然などの具体例や哲学者の言葉を通して考えます。
全１５講　受講料４５００円

生きること・死ぬこと
現代社会の状況のなかで、「いのち」について考えます。健康と病気、産むこと、老いることなど。
全１０講　受講料５０００円

〈お申込み方法〉
郵便局に備え付けの振替用紙にご希望の講座名をご記入の上、受講料を下記にお振込みください。
入金確認後教材をお送り致します。
振替口座番号：00170-2-84745
加入者名：オリエンス宗教研究所

〈お問い合わせ・お申し込み〉
オリエンス宗教研究所　カトリック通信講座
〒156-0043　東京都世田谷区松原2-28-5
Tel ： 03-3322-7601　Fax ： 03-3325-5322
URL ： http://www.oriens.or.jp
携帯サイト：http://www.oriens.or.jp/mobile/
ご希望の方にはパンフレットをお送りいたします。

本紙への広告掲載を募集しています。
皆様のご協力を宜しくお願い致します！
教区広報委員会

編集後記

今春の桜の開花はこと
ほかの早かった。
と周年の信仰年・教区設立50
周年の信仰年・新教皇誕生日
自養成コース起ち上げ。
区の考える教区の復活祭を目在
白押しの中で
迎え押した。
信仰年を生き信仰年を通して
信仰年にてかは終わりて意味なで信じ
11月まで続く
は仰が信を生育涯仰
ズ号　さス皇た　い
番信訂れタをめ神
号仰正てーいの
③年：いトた模範
を記教るをだき、
④事区の切る、
に・報だる様新
（J）シリ１５ろにた
リー３う。召な
教

聖ドミニコ宣教修道女会

医療法人社団聖心会　阪本病院
わたしたちは、患者様の立場に立った全人医療を行い、地域の皆様に愛され信頼される病院を目指します
院内保育園完備

整形外科・脳神経外科・泌尿器科
皮膚科・外科・消化器外科
肛門外科・乳腺外科・形成外科
呼吸器外科・呼吸器内科・内科
リウマチ科・放射線科・リハビリテーション科・麻酔科
〒769-2602
香川県東かがわ市川東103-1
☎0879-25-1121（代）
http://www.sakamoto-hosp.or.jp/

TSC 第２回
さぬきうどん振舞い隊
参加者募集中！
あなたも東北へ行って確かめてみませんか。
うどん炊き出しボランティアと被害状況の確認をします！
実施要項
●日　時：2013年6月7日（金）～11日（火）
●目的地：大船渡ベース（地の森いこいの家）
●参加費：10,000円（交通費）
但し、宿泊費自己負担（地元ホテル２泊）
2泊14,000円程度
●募集人員：４０名
●交通手段：大型貸し切りバス（リクライニング）
●申込み期限：５月１５日
●申込・問合わせ：TSC ☎ 070(5512)6810 谷口助祭
メール：tk-koho@mxi.netwave.or.jp

奮ってご応募、問い合わせください！

私たちは、自分を創造しようとするこどもをまなび、護りましょう
暁　の　星　学　園
鳴門聖母幼稚園　高知聖母幼稚園
阿南聖母幼稚園　海の星幼稚園